

令和元年東日本台風による 入間川水系等の被災状況について

令和2年3月22日

埼玉県県土整備部河川砂防課

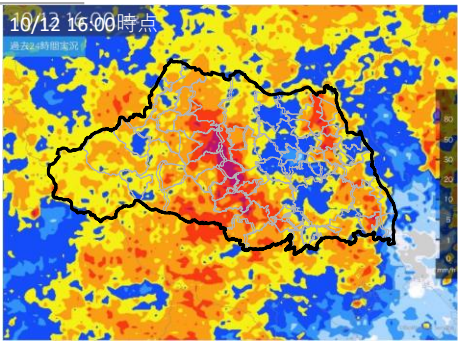
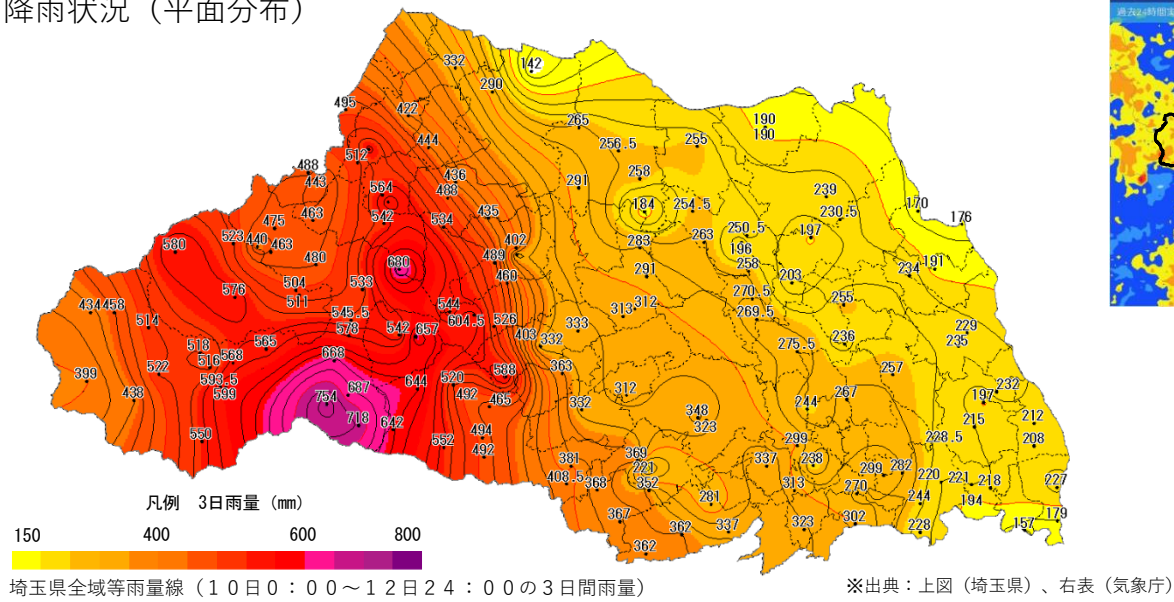


埼玉県マスコット「コバトン」

埼玉県内の被害状況

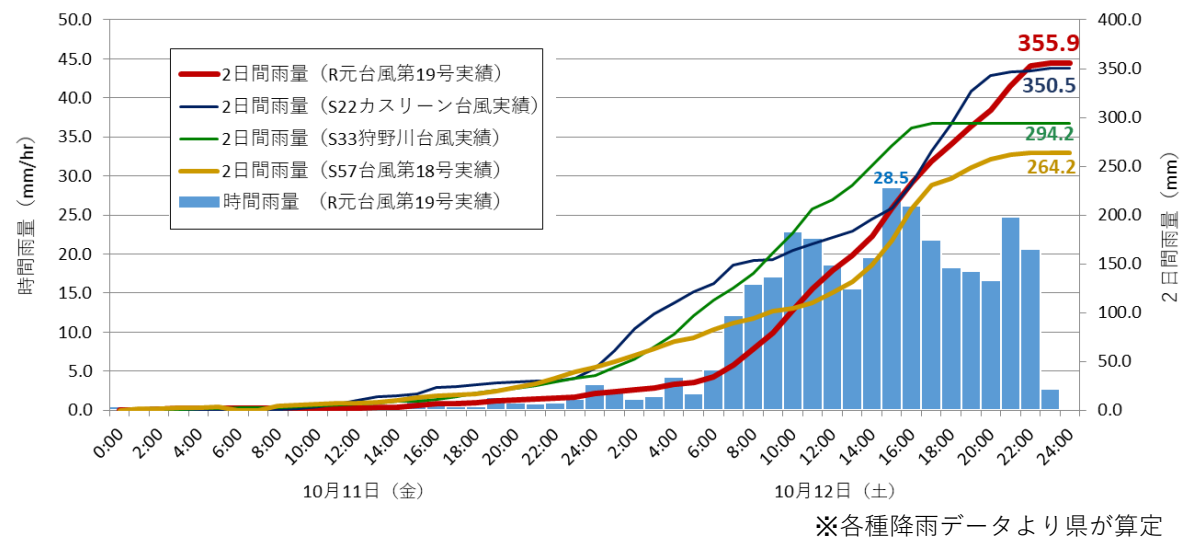
(1) 降雨状況(平面分布と時間分布)

降雨状況（平面分布）



観測所	さいたま	越谷	所沢	飯能	ときがわ	鳩山	久喜	
総雨量 (mm/60h)	299	228.5	362.5	408.5	604.5	324	230.5	
時間最大雨量 (mm/h)	59	31	50	38	46.5	31	30	
		鴻巣	熊谷	寄居	秩父	上吉田	浦山	三峰
		196	256.5	488	545.5	463	687	593.5
		17.5	24.5	48.5	46	36.5	59	44

降雨状況（時間分布）



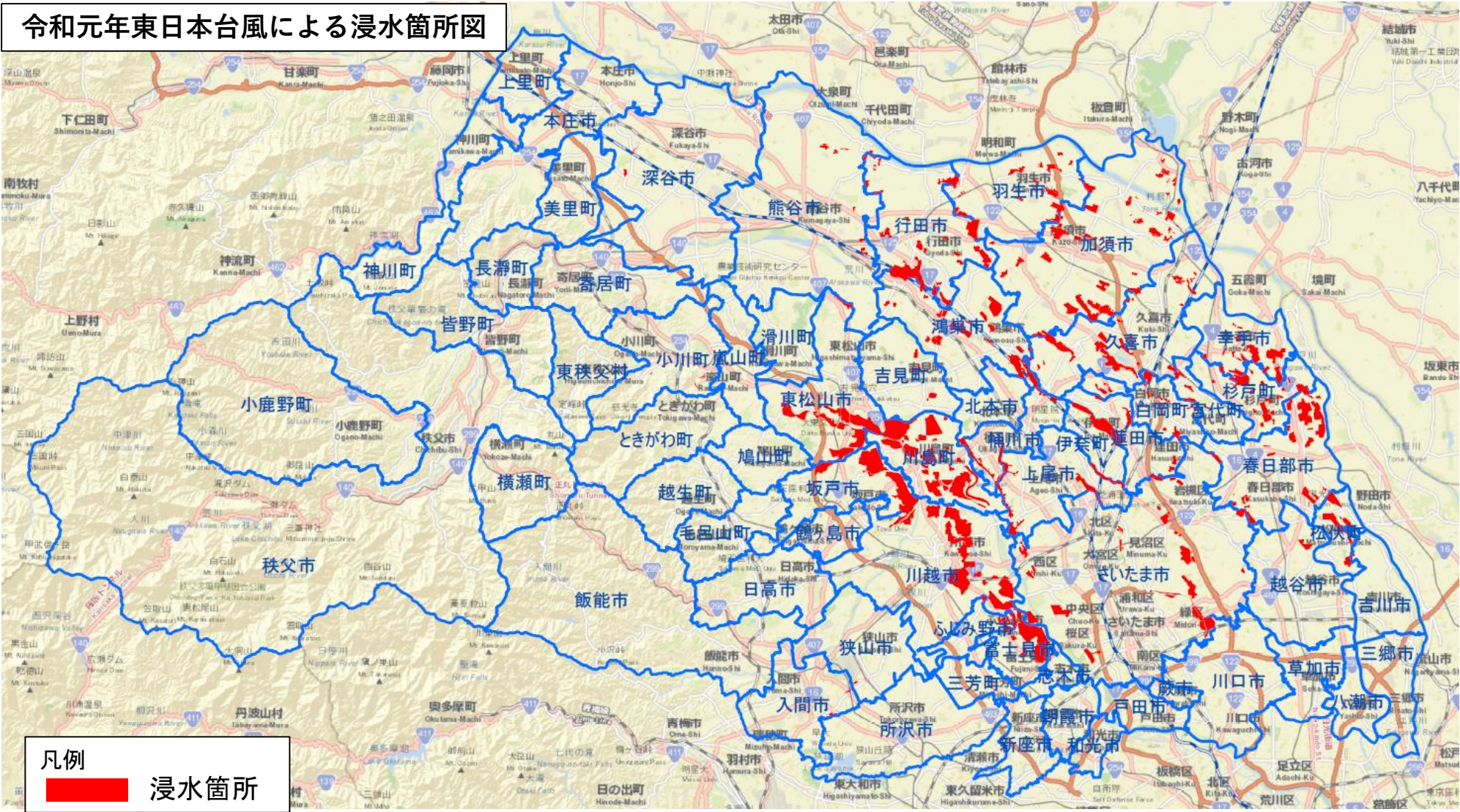
- 今回の台風19号は、過去に県内に大規模な被害をもたらした台風と肩を並べる規模
- ※県全域の平均雨量の比較
- 日降水量で観測史上1位を記録した観測所が県内11/14箇所
- ※気象庁の県内14観測所
- 県管理河川で37年ぶりの堤防決壊（前回は、S57年台風18号における新河岸川の決壊（朝霞市））

埼玉県内の被害状況

(2) 浸水状況

県内で約10,317haの浸水被害が発生(衛星写真等から判別し集計したもの 調節池、内水氾濫等を含む)

令和元年東日本台風による浸水箇所図

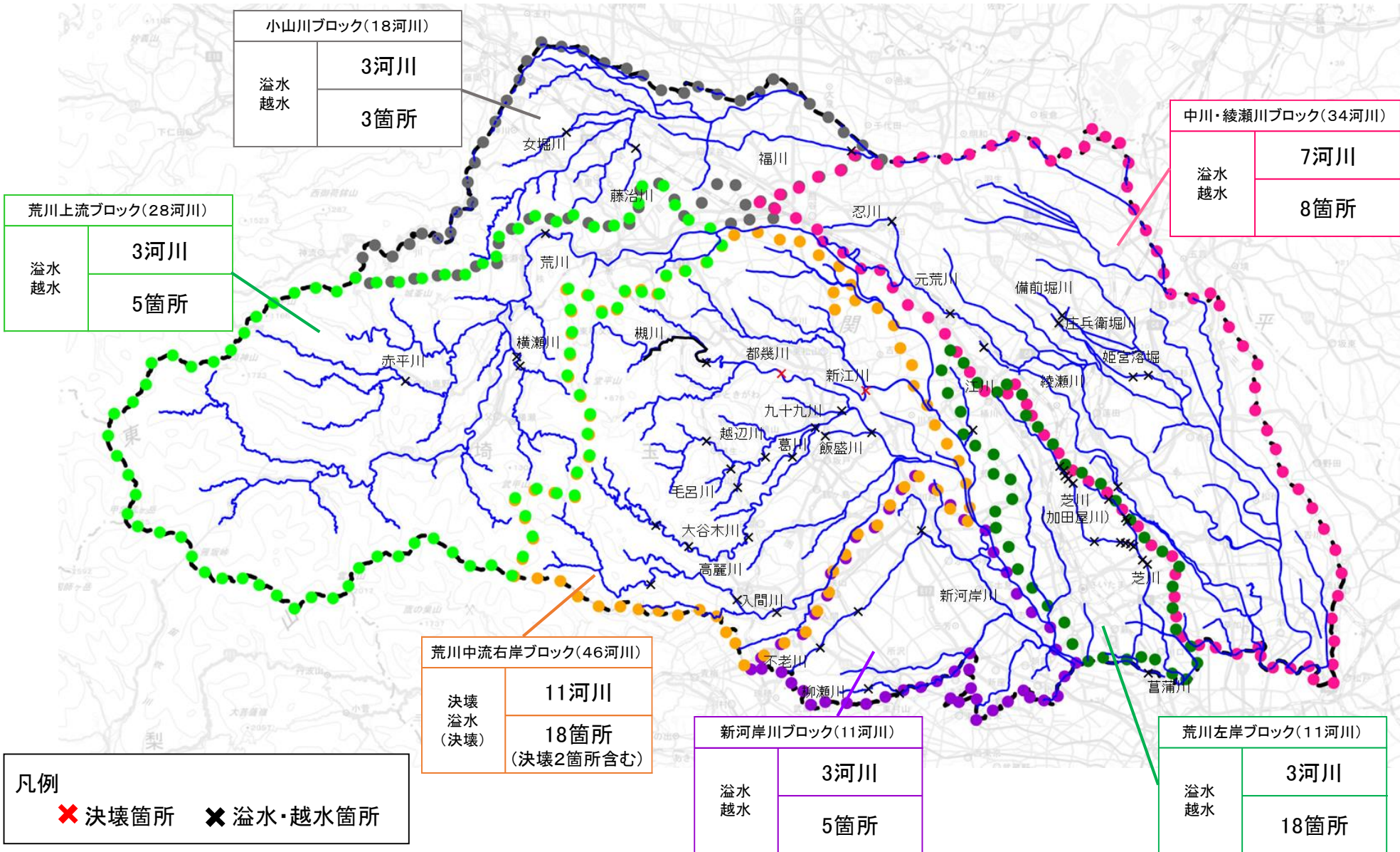


※衛星画像 2019年10月13日10時28分観測(及びその後の現地調査資料に拠るものを含む)

埼玉県内の被害状況

(3) 決壊・溢水・越水 57箇所

県管理河川の2箇所で決壊、55箇所で溢水・越水が発生。

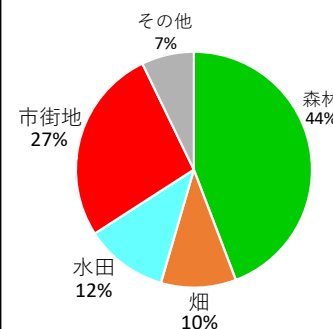


荒川水系荒川中流右岸ブロックの流域の概要

- 本ブロック内の河川は山間部の溪流から平野部のゆったりした流れまで、多様な河川環境が存在する。
- 秩父山地や丘陵地から荒川低地へと流れ、最終的に和田吉野川、市野川、入間川の3川となって荒川に合流している。
- 大小様々な河川が流れており、県管理河川は46河川に及ぶ。

土地利用

- ◆流域の土地利用は森林が約44%、市街地が約27%、水田が約12%、畑が約10%となっている(H28)。
- ◆過去50年間では、森林・水田が減少し宅地と畑が増加しており、相対的に市街地化が進んできている。



気象・気候特性

- ◆夏は高温多湿、冬は低温乾燥の太平洋岸性気候である。
- ◆年間の平均気温は15℃程度で、季節に応じて5～25℃の範囲内で変動する。
- ◆年間の総雨量が900～1,500mm程度と全国平均に比べて少ない。梅雨や台風の影響により夏に多く、冬に少ない傾向がある。

地形特性

- ◆ブロック西部の山地は秩父山地の一部をなしており、ブロックの西端には1,000m未満の峰が連なっている。
- ◆秩父山地の東端に接する形で、比企丘陵、岩殿丘陵、毛呂山丘陵、高麗丘陵が半島状に東に突き出し、さらにこれら丘陵の東側縁辺部に東松山台地、入間台地が分布している。
- ◆ブロック東部に広がる平地は関東平野の一部をなす荒川低地で、関東平野の西北端に位置している。



荒川水系荒川中流右岸ブロックの流域の概要

過去の主な災害

○荒川中流右岸ブロックでは、主に東部の低平地においてたびたび浸水被害が生じている。至近20年間で特に被害の大きかった洪水は、昭和57年9月洪水、平成11年8月洪水である。

○水害の形態は、河道の流下能力不足による溢水その他、支川合流点における本川から支川への逆流による溢水や支川から本川への排水不良による内水が主な原因であった。

H11.8 熱帯低気圧



越辺川と飯盛川の合流点付近



坂戸市浸水状況

S57.9 台風18号



和田吉野川と通殿川の合流点付近



過去の主な水害				
洪水発生日	総雨量	浸水面積 (ha)	浸水戸数 (戸)	要因
S57. 9. 10～12	332mm	5, 354	2, 102	台風18号
H2. 9. 24～10. 1	185mm	283	53	台風20号
H2. 11. 27～12. 3	273mm	1, 378	148	台風28号
H5. 8. 26～27	164mm	108	34	台風11号
H10. 8. 27～30	320mm	401	30	台風4号
H10. 9. 15～16	199mm	373	15	台風5号
H11. 8. 12～14	419mm	1, 048	705	熱帯低気圧
H12. 7. 7～9	140mm	161	17	台風3号
H13. 9. 8～11	63mm	51	0	台風15号
H14. 7. 9～12	279mm	155	8	台風6号
H14. 9. 30～10. 3	177mm	270	38	台風21号
H19. 9. 5～7	238mm	1	5	台風9号
H23. 8. 31～9. 3	152mm	0. 8	6	台風12号
H28. 8. 21～23	190mm	53	73	台風9号
H29. 10. 20～23	262mm	1, 668	39	台風21号
R01. 10. 10～13	384mm	3, 755	1, 720	台風19号

※令和元年10月洪水に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります

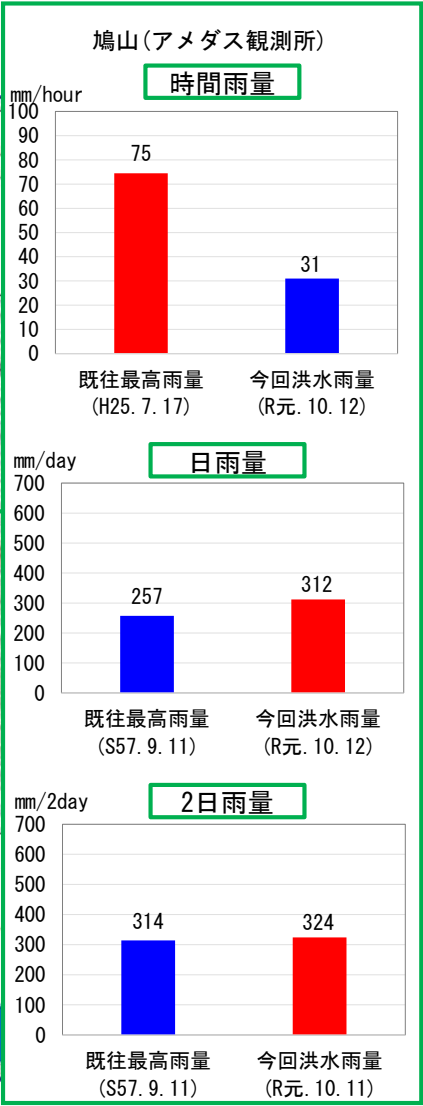
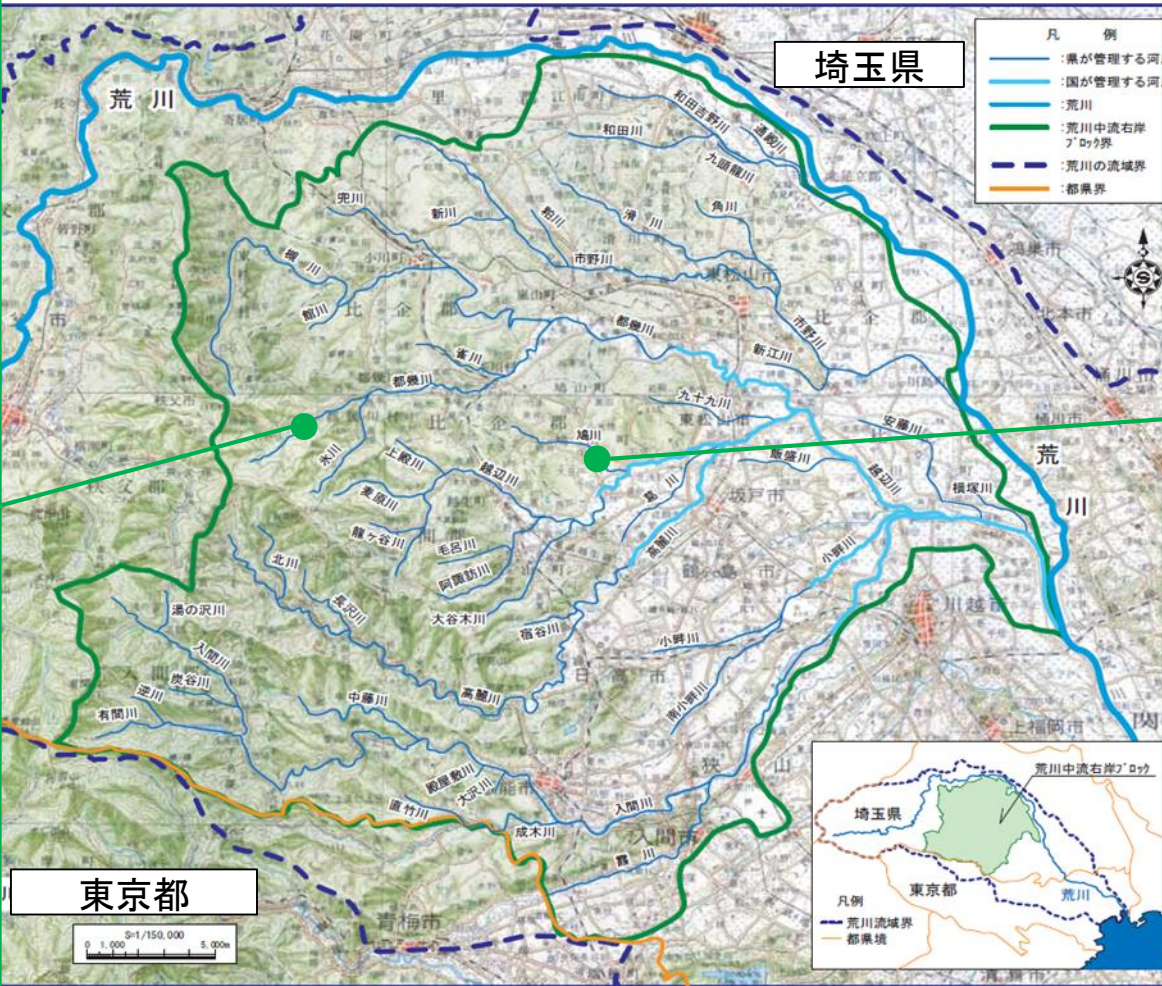
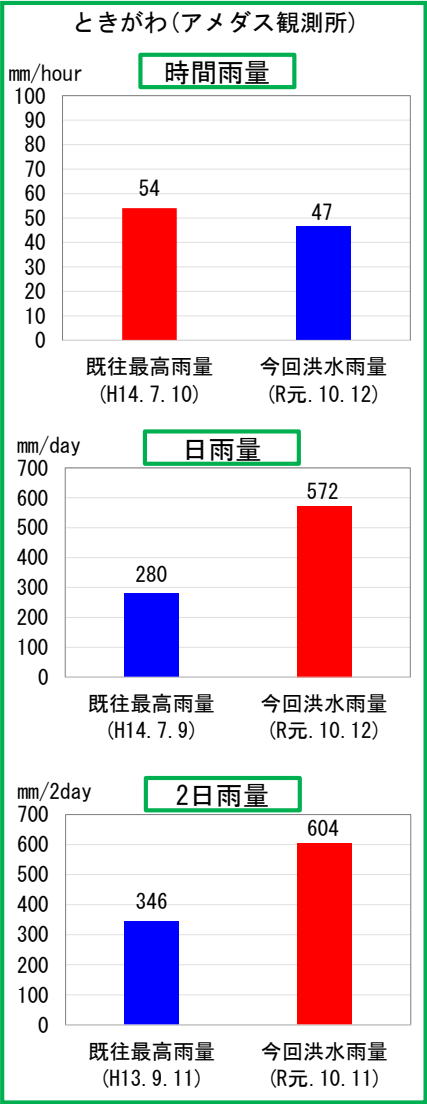
※令和元年10月洪水の浸水面積・浸水戸数は一部、他ブロックのものも含む

荒川水系荒川中流右岸ブロックの被害状況

(1)降雨状況

本ブロック内の、ときがわアメダス観測所・鳩山アメダス観測所（気象庁）において、日雨量、2日雨量とも観測史上最高雨量を観測した。

既往最高雨量と今回洪水雨量の比較

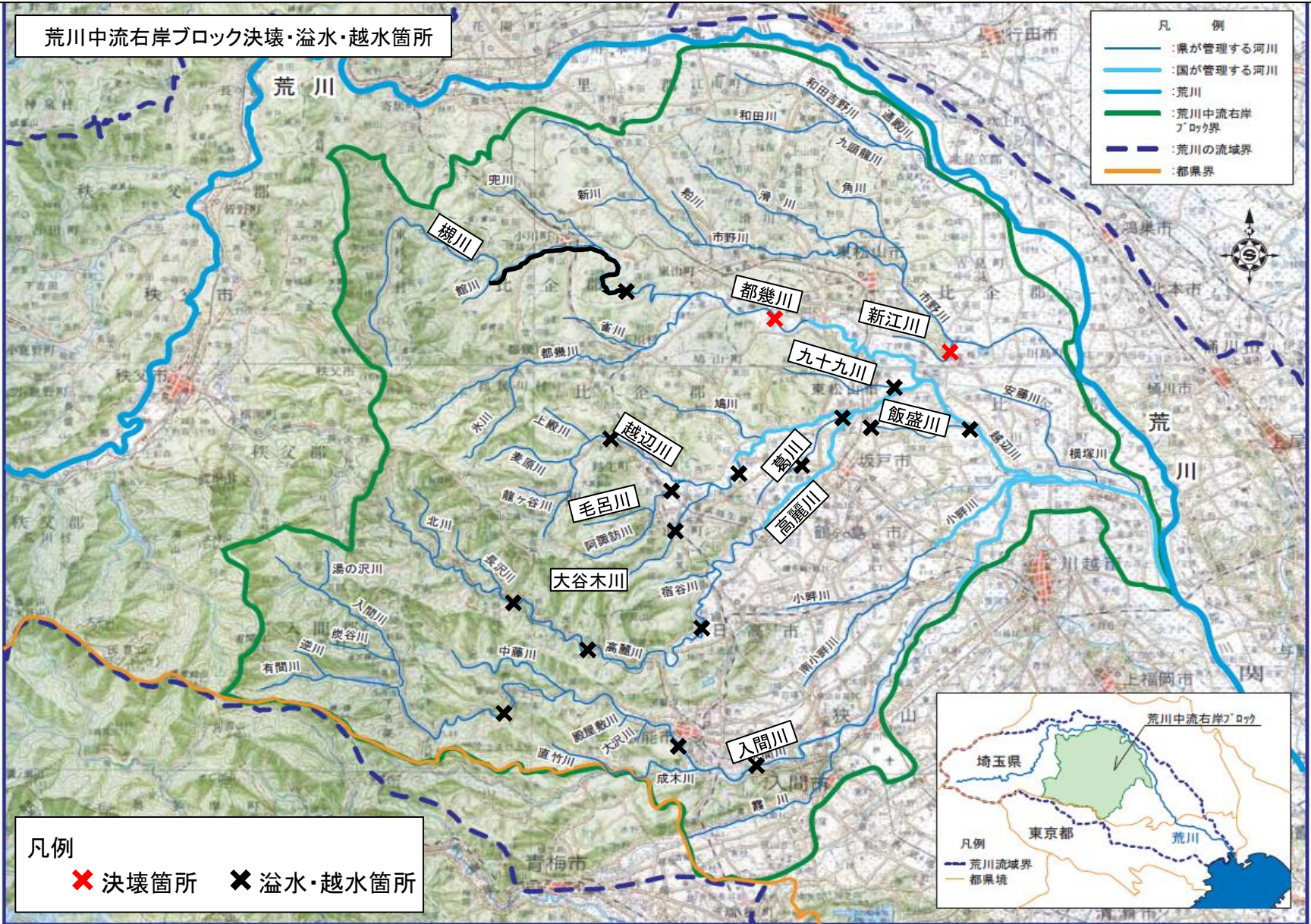


※令和元年10月洪水に関する数値は速報値であり、今後の精査により変更する可能性があります

荒川水系荒川中流右岸ブロックの被害状況

(2) 決壊・溢水・越水状況

本ブロック内では、2箇所で決壊、16箇所で溢水・越水した。

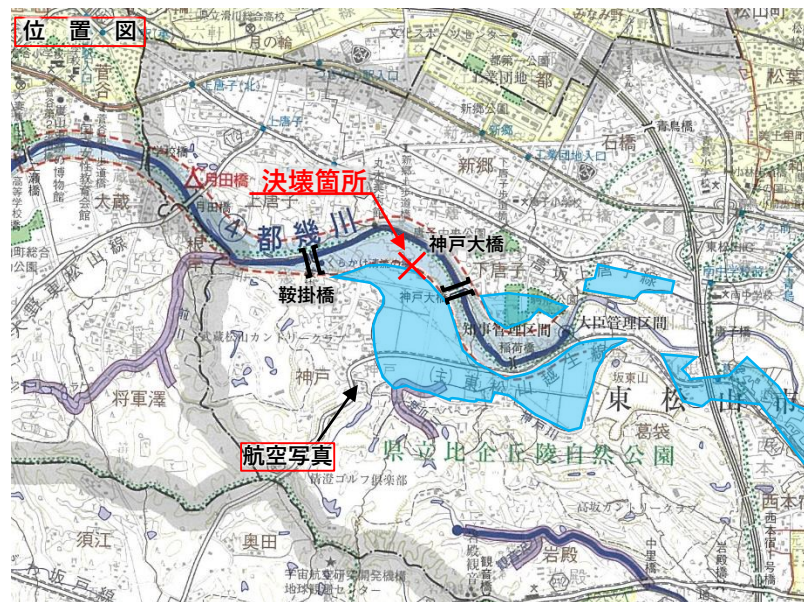


※槻川は、連続した広範囲での溢水のため1箇所としてカウント

荒川水系荒川中流右岸ブロックの被害状況

(3) 決壊状況【1/2】(都幾川)

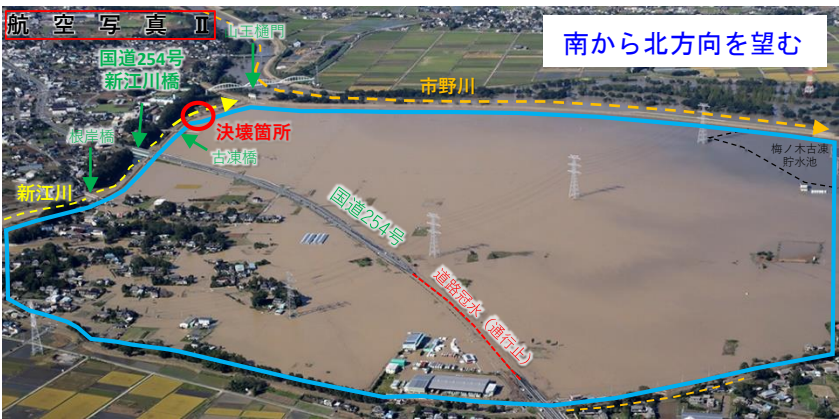
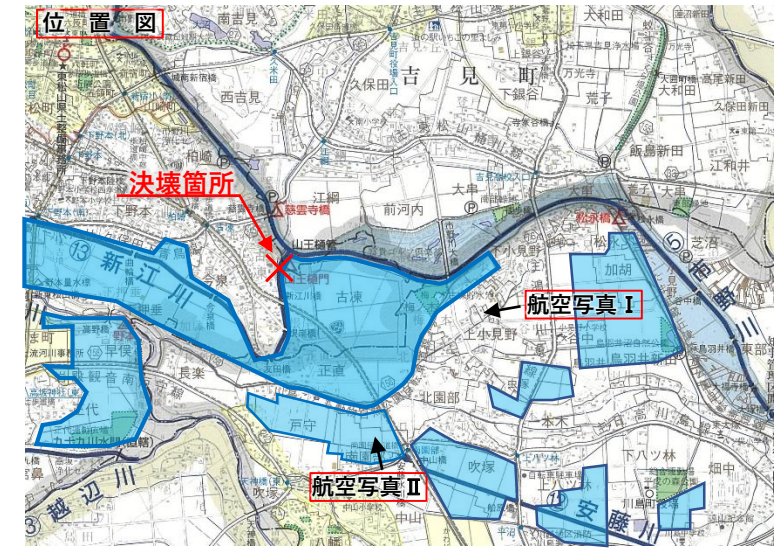
都幾川では神戸大橋上流右岸で堤防が幅約30mに渡り決壊し、10月19日に応急復旧が完了した。



荒川水系荒川中流右岸ブロックの被害状況

(3) 決壊状況【2/2】(新江川)

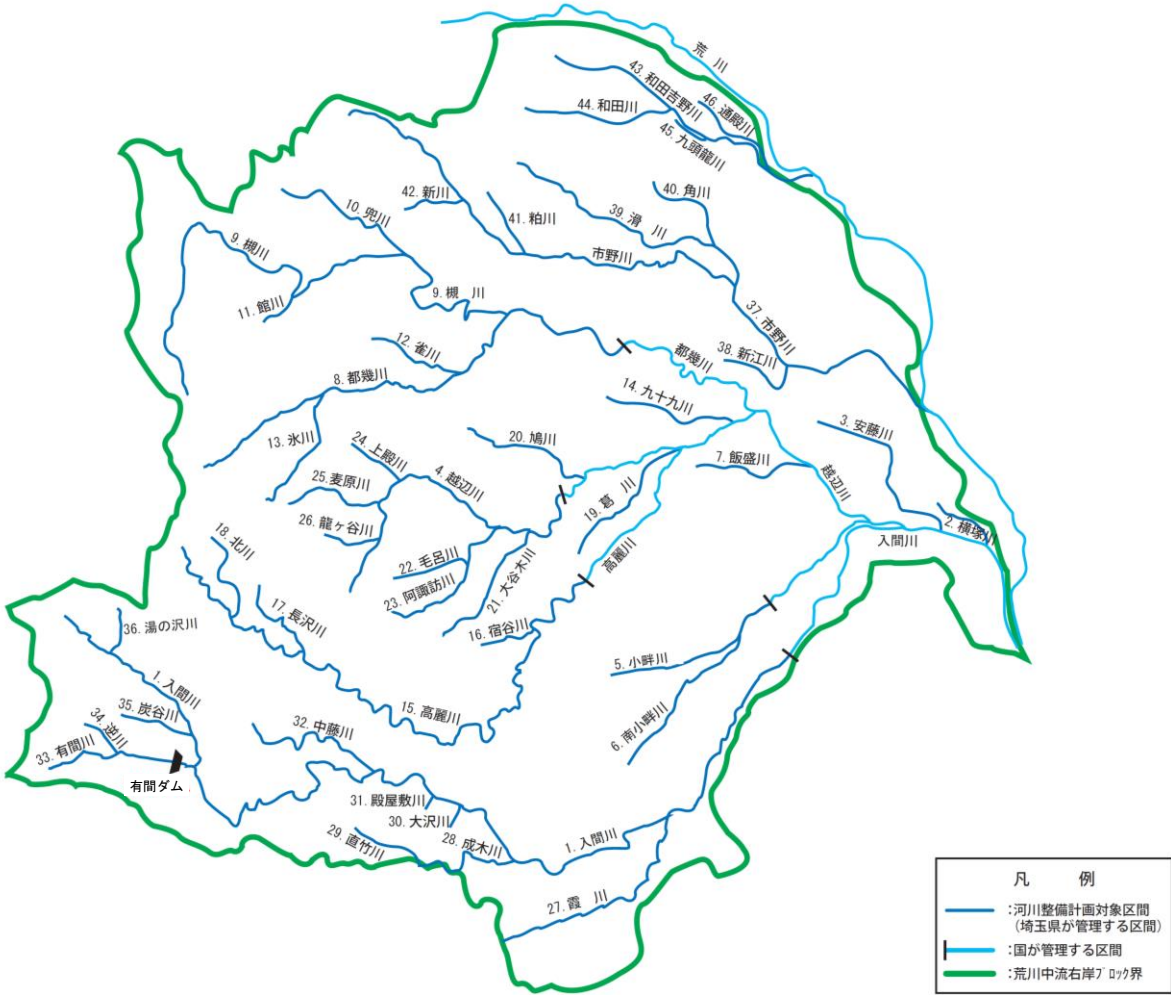
新江川では市野川合流点付近の右岸で堤防が幅約27mに渡り決壊し、10月17日に応急復旧が完了した。



荒川水系荒川中流右岸ブロックの河川整備計画

(1) 現河川整備計画の対象区間・計画対象期間・河川整備の目標

- 河川整備計画の対象とする区間は、荒川中流右岸ブロックにおける一級河川のうち、埼玉県が管理する全ての区間とする。
- 河川整備計画の計画対象期間は、概ね30年間とする。
- 上流部を中心とした十分な流下能力を有する区間を除き、改修が必要な平地部の区間では、時間雨量50mm程度の降雨を河川整備の目標とする。



番号	一次支川	二次支川	三次支川	四次支川	五次支川	流域面積 (km ²)	河川延長 (km)
1	入間川					224.40	36.98
2		横塚川				5.10	2.48
3		安藤川				16.47	6.69
4		越辺川				65.22	14.50
5			小畔川			37.75	8.06
6				南小畔川		11.34	6.50
7			飯盛川			23.54	4.35
8			都幾川			153.54	16.70
9				槻川		86.43	24.90
10					兜川	16.87	7.35
11					館川	8.78	2.10
12				雀川		8.40	6.30
13				氷川		8.28	4.35
14			九十九川			9.36	5.60
15	入間川	越辺川	高麗川			95.93	41.60
16				宿谷川		3.94	3.84
17				長沢川		8.26	4.30
18				北川		9.58	4.70
19			葛川			13.30	7.89
20			鳩川			20.16	5.10
21			大谷木川			7.90	6.52
22			毛呂川			10.94	4.29
23				阿諏訪川		4.20	1.48
24			上殿川			3.41	2.50
25			麦原川			6.00	3.50
26			竜ヶ谷川			4.33	2.50
27		霞川				26.80	15.80
28	入間川	成木川				15.91	4.60
29			直竹川			11.10	4.80
30			大沢川			0.87	0.96
31			殿屋敷川			0.62	0.51
32			中藤川			15.65	7.40
33			有間川			17.24	9.10
34			逆川			3.81	1.80
35		炭谷川				3.23	2.60
36		湯の沢川				2.77	1.90
37	市野川					146.60	34.00
38		新江川				10.93	4.42
39		滑川				39.70	16.00
40			角川			5.50	3.80
41		粕川				6.45	3.50
42		新川				4.01	2.60
43	和田吉野川					34.27	11.20
44		和田川				14.36	9.00
45		九頭竜川				4.32	1.70
46	通殿川					7.80	3.61

平成18年2月 荒川中流右岸ブロック河川整備計画策定

令和2年1月 荒川中流右岸ブロック河川整備計画点検

社会情勢の変化(近年の洪水等による災害の発生の状況等)

- 今回の洪水では、流域内にある気象庁の雨量観測所2箇所で、日雨量、2日雨量とも既往最大雨量を上回る降雨があった。
- ブロック内の県管理河川9河川において、今回の被災流量が計画流量を上回った。
(例：都幾川 河川整備計画流量 $720 \text{ m}^3/\text{s}$ 今回の被災流量 $1,347 \text{ m}^3/\text{s}$)
- 被災流量が計画流量を下回った河川等においても、6河川で決壊・溢水・越水が発生した。

河川整備の進捗・実施状況

- 河川改修や維持管理を実施中である。
- 被災流量が計画流量を上回った河川については、計画目標流量の見直しの必要性について確認を要する。
- 被災流量が計画流量を下回ったものの、決壊・溢水・越水が発生した河川については、現行計画に定める対策を変更する必要性について確認を要する。
- 整備対象期間に整備予定がないものの、溢水・越水が発生した河川については、新たな対策を位置付ける必要性の確認を要する。
- その他の河川においては、現行計画に位置付けている対策又は維持管理を引き続き実施する必要がある。

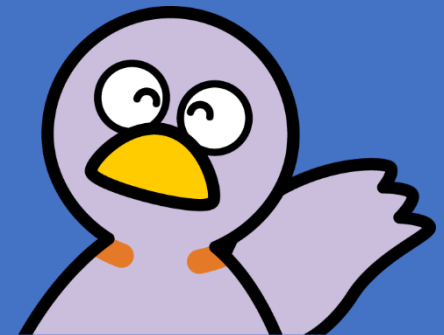
埼玉県河川整備計画の点検結果

◆県内6ブロックの点検結果

- 被災流量が計画流量を上回った河川については、計画目標流量の見直しの必要性について確認を要する。
- 被災流量が計画流量を下回ったものの、決壊・溢水・越水が発生した河川については、現行計画に定める対策を変更する必要性について確認を要する。
- なお、以前から計画変更に向けて検討を進めている河川については、引き続き、現行計画の目標達成に必要な対策の検討を進める。
- その他の河川においては、現行計画に位置付けている対策又は維持管理を引き続き実施する必要がある。

ブロック名	点検対象河川	決壊 溢水 越水 河川	① 計画目標流量の見直し の必要性を検討	② 現行計画に定める対策 の変更の必要性を検討	③ 現行計画に定める対策 を実施	④ 現行計画に定める 維持管理を実施
中川・綾瀬川ブロック	34	7	2 元荒川、備前堀川	5 綾瀬川、赤堀川、忍川 姫宮落川、庄兵衛堀川	21	6
小山川ブロック	18	3	1 福川	2 女堀川、藤治川	7	8
荒川左岸ブロック	11	3	0	3 芝川、菖蒲川 江川 〔以前から変更に向けた検討を実施中〕	7	1
新河岸川ブロック	11	3	0	3 新河岸川、柳瀬川、不老川	6	2
荒川上流ブロック	28	3	0	3 荒川、赤平川、横瀬川	2	23
荒川中流右岸ブロック	46	11	9	8	6	23
合計	148	30	12	24	49	63

ご清聴ありがとうございました



埼玉県マスコット「コバトン」